



⑱〔新町屑糸工場開業式祝辞〕

明治10（1877）年10月20日

この史料は、新町屑糸紡績所の開業式における大久保利通らの祝辞です。明治6年ウィーン万博で渡欧し技術を伝習した佐々木長淳（ながあつ。1830～1916年）が、「日本では廃棄される屑糸・屑繭を、西欧では紡績機で絹糸ができる」と絹糸紡績工場の必要性を内務卿大久保利通に建議しました。その後、内務省が設立したのが官営新町屑糸紡績所です。同所は、日本人自らが構想から建設まで行った記念すべき工場であり、日本最初の洋式近代工場として評価されています。

高橋辰巳家文書 P8109 No. 374

【積文⑱】

今茲(こゝ)此屑糸工場開業式ヲ行フ、回顧スレハ、邦人、屑繭・屑糸ニ於ケル之ヲ賤価ノ屑トシ視テ、之ヲ外商ノ手ニ投ス、彼レハ翻テ有利ノ貨トナシ、之ヲ各自ノ市ニ輸タセリ、今夫レ茲(これ)ニ此業ヲ開キ、殆ント既往ノ無価ヲ轉シ、太タ将来ノ有利ト為シ、其利ヲ邦人ニ附セントス、孰レカ此業ノ興ルヲ慶セサランヤ、然レモ其興ルヲ慶スル所以ノモノ、豈ニ徒ニ此工場(ゆえん)ノ業ヲ云ハンヤ、能ク邦人ノ之レニ抛リ広ク此業(あに)己レニ伸ヘ、以テ隆興ヲナセハナリ、吾邦人ノ怜

惻ナル、豈ニ隆興ヲ成サ、ランヤ、併テ本場夫員
勉勵ノ功少ナカラザルヲ嘉シ、敢テ教言ヲ述テ
祝辭トス
明治十年十月二十日 内務卿大久保利通

所長答辞ヲ述ラル

御祝辭ノ趣、謹テ領承、尚此上極テ黽勉可致存候
紡績所長 佐々木長淳

上野國タル地勢高燥、山脈峻峭、空氣
流通頗駛地ニ蚕糸ノ利アリテ、民産略
足り、況ヤ維新ノ政府殖産ノ業ニ汲々々
ルヲ以テ、廣ク技術器械ヲ外國ニ講究シ、
日ニ新ニ進ム、曩ニ富岡街ニ於テ製糸
場ヲ設ケタリ、今又新町駅ニ於テ紡績
器械ヲ創ス、富岡ノ新街ト相距數里
ニシテ、西器械ノ設ケ、石造高廈、飛臺雲ノ

如ク、烟突天ニ挿テ相望ム、嗟夫盛ト謂フヘシ
是即チ政府殖産ニ力メタル所以ト虽トモ、抑
又物産盛大ノ致ス所、土地人民ノ幸福夥
多ト謂ハサルヘケン哉、況ヤ層糸ト稱スル者、從
前棄物視セシ者ニシテ、一朝之ヲ轉シテ有
益物トナサシメ、輸出ノ品ニ充ツルモノ、真器械
精到、技術ノ進歩ニ出ツルモノ、人智ノ開明、此ニ
至ル、蓋シ其幸福タルヤ、豈ニ独リ土地ノ殷賑ト

家屋宏壯トノ美觀、ミ止ランヤ、器械場土木
功ヲ竣矣、大久保内務卿、松方勸農局長
其地内閣諸公、嚴然莅テ開業ノ式ヲ行ハル、素
彦等地方官ヲ以テ、本地ヲ管轄スル已ニ二年アリ
追歲殖産ノ政舉リテ、土地人民ノ幸福モ亦
一端ニ止ラサルヲ喜ヒ、殖産ノ基礎五管内ニ端
緒ヲ啓キ、推シテ全国ニ及ヒ、其盛大無窮ニ
至ランヲ冀望スル也

明治十年十月二十日 群馬縣令楫取素彦

此驛半領、伊坐八幡大神乃大前、申掛、掛
天御中主天御神造化乃神業所知、食給
大神等、謹美拜、美、白、佐々木、神崎、前
温井乃川、所、明治、八年、初、夏、利、紡績

惻ナル、豈ニ隆興ヲ成サ、ランヤ、併テ本場夫員
勉勵ノ功少ナカラザルヲ嘉シ、敢テ教言ヲ述テ
祝辭トス
明治十年十月二十日 内務卿大久保利通

所長答辞ヲ述ラル

御祝辭ノ趣、謹テ領承、尚此上極テ黽勉可致存候
紡績所長 佐々木長淳

上野國タル地勢高燥、山脈峻峭、空氣
流通頗駛地ニ蚕糸ノ利アリテ、民産略
足り、況ヤ維新ノ政府殖産ノ業ニ汲々々
ルヲ以テ、廣ク技術・器械ヲ外國ニ講究シ、
日ニ新ニ進ム、曩ニ富岡街ニ於テ製糸
場ヲ設ケタリ、今又新町駅ニ於テ紡績
器械ヲ創ス、富岡ノ新街ト相距數里
ニシテ、西器械ノ設ケ、石造高廈、飛臺雲ノ

如ク、烟突天ニ挿テ相望ム、嗟夫盛ト謂フヘシ、
是即チ政府殖産ニ力メタル所以ト虽トモ、抑
又物産盛大ノ致ス所、土地人民ノ幸福夥
多ト謂ハサルヘケン哉、況ヤ層糸ト稱スル者、從
前棄物視セシ者ニシテ、一朝之ヲ轉シテ有
益物トナサシメ、輸出ノ品ニ充ツルモノ、真器械
精到、技術ノ進歩ニ出ツルモノ、人智ノ開明、此ニ
至ル、蓋シ其幸福タルヤ、豈ニ独リ土地ノ殷賑ト

家屋宏壯トノ美觀ノミニ止ランヤ、器械場土木
功ヲ竣矣、大久保内務卿・松方勸農局長、
其地内閣諸公、嚴然莅テ開業ノ式ヲ行ハル、素
彦等地方官ヲ以テ、本地ヲ管轄スル已ニ二年アリ、
追歲殖産ノ政舉リテ、土地人民ノ幸福モ亦
一端ニ止ラサルヲ喜ヒ、殖産ノ基礎五管内ニ端
緒ヲ啓キ、推シテ全国ニ及ヒ、其盛大無窮ニ
至ランヲ冀望スル也

明治十年十月二十日 群馬縣令楫取素彦

此驛半領、伊坐八幡大神乃大前、申掛、掛
天御中主天御神造化乃神業所知、食給
大神等、謹美拜、美、白、佐々木、神崎、前
温井乃川、所、明治、八年、初、夏、利、紡績

(後略)